

活動名	団体名	自閉症児を育てるママたちの会 ママかん
	地域	山口県山口市
	代表者	代表 新田 圭子
	支援金額	50万円
活動概要		
<p>自閉症や発達障害の子どもをサポートするボランティア育成を主な目的として活動した。 活動概要は、①自閉症の母親たちのための交流カフェの企画・運営・託児にかかわるボランティアのコーディネートと育成、②自閉症や発達障害の子どもにかかわるボランティアのためのハンドブック作成と啓発DVDの作成を行う。</p> <p>◆実施時期 平成22年4月12日(日)世界自閉症デーイベント カフェ活動:山口県立大学 平成22年4月～平成23年2月(月1回)ママかんフリーカフェ:山口県立大学地域交流スペースYucca 平成22年7月11日(日)あくしゅの会余暇くらぶくれよん夏祭り ママかんカフェ出展:ひらきの里 平成22年10月17日 自閉症研修会にてカフェ活動:山口県立大学看護棟 平成22年11月23日 ボランティア学習会・交流会:岡村邸はりはり 平成22年12月 ボランティアとの交流「ありがとうの会」:山口市マーレ 平成22年12月～平成23年2月 ハンドブック企画・編集会議及び執筆作業 平成23年3月 ハンドブック校正作業、反省会ミーティング</p> <p>◆参加人数 学生ボランティア166名、イベント・カフェ参加者 443名 専門家ボランティア 37名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 646名</p>		



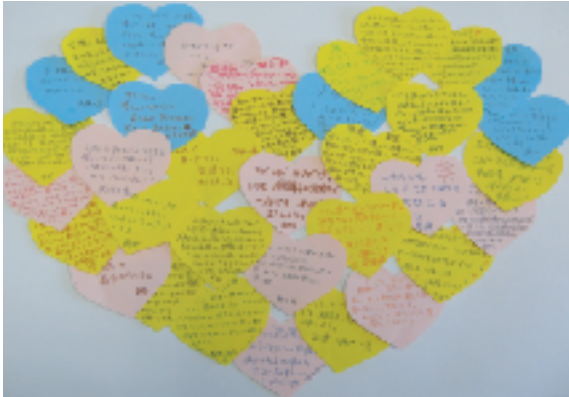
月一回のママかんフリーカフェの託児の様子
(学生ボランティアが大活躍です)



月一回のママかんフリーカフェの様子
母親同士の素敵な交流が生まれるように…



ママかんスタッフと子ども、そして活動をしてくれる
専門家とボランティアのみんなと



自閉症支援にかかわるボランティア、専門家、
そして、家族のメッセージ

◆実施に伴う効果

- ① ボランティア力を活用したことによるママかんフリーカフェの継続化と発展
 - ・専門家ボランティアと学生ボランティアの力を活用したことで、定期的に障害児、発達が気になる子どもを育てる母親同士が気軽に情報交換したり、専門家や先輩の母親に相談したりできるカフェを運営することができた。
 - ・知的障害児通園施設、児童デイサービス等、幼稚園・保育所、学校、その他医療現場や児童相談所等の相談機関、保健センターなどと連携し、インフォーマルサービスとしての母親支援事業として機能させることができた。
- ② 出会いの場の創造
 - 母親同士、母親とボランティア、ボランティアと子ども等々の出会いの場を創造することができた。
- ③ 成果物の作成とその活用の効果
 - ママかんは平成15年8月から自閉症を育てる母親が専門家と協力しながら親同士の交流や学習の機会を提供したり、ボランティア育成を継続して行っている。6年間の継続した活動によって、山口市を中心に自閉症の理解と支援の輪を確実に広げているが、今回、マツダ財団から助成金を受け、これまでの活動で得た地域のニーズ、障害児・者福祉に必要なボランティア育成に着目し、成果物を作成できたことは大きな成果だったと考える。DVDは4分間で構成されており、今後、自閉症支援やボランティア育成にかかわるイベントや研修会、学習会で有効に活用できる。すでに、ボランティアのための学習会等で2回、当会と連携している大学教員の講演会で2回活用した。また、ハンドブック(冊子)は、B5サイズ32ページで構成されている、当初の予定であったボランティアを対象とした「ボランティア育成」の目的にとどまらず、自閉症児を育てる母親にとって参考となる情報を入れることとした。したがって、「自閉症児を育てる家族の子育て支援」のツールとしても活用できると思われる。
 - このハンドブック(冊子)は、全国の発達障害者センターと山口県の関係機関に3冊ずつ郵送・配布した。また、ママかんカフェの参加者や活動に参加したボランティアに配布、今後も配布する予定である。この冊子を教育・福祉・医療等の専門家の研修会で紹介したところ、「分けてほしい」という声もあがった。平成23年4月 20 日にママかんスタッフを中心に話し合った結果、以下のような方針で、東日本大震災の義援金活動に参加することとした。

◆苦労した点

1. ボランティアコーディネート
 - ・運営にかかわる学生ボランティアが継続して活動・事業にかかわってもらうための工夫が必要であった。
2. 予算及び専門的技術の欠如
 - ・ボランティアのためのハンドブックの企画においては、多くの情報を掲載したかったのだが、予算にこともあり、ミニ冊子を作成した。DVDの作成への意欲は高かったが、編集ができるスタッフがいないため、業者に見積もると30万 円かかることがわかり、断念した。したがって、これまでの写真を構成してバックに音楽を流し、約4分間のDVD作成を行なった。
3. 専門機関との連携と課題と活動の普及方法
 - ・保健センターとの連携は極めて重要だと考えていたが、行政機関との連携の難しさを感じた。このような取り組みを普及・啓発していくためには、保健センター等の行政機関や関係機関と手を取り合っていく必要がある。

◆今後の課題・発展の方向性

今後の課題として、創設した母親支援事業(ママかんフリーカフェ)を継続させつつ、地域を基盤とした顔と顔が見える関係の中で地域のフォーマルな支援機関との連携を強化し、地域における母親支援システムの構築に向けて実践を継続することである。そして、地域における母親同士のつながりだけでなく、母親とボランティア、母親と専門家等、母親が人や社会とかかわりながら子育てができる環境としての地域社会を創造していきたいと考える。また、自閉症、発達障害の発見前の支援体制の整備は十分とはいえない。ここに着目しつつ、ママかんスタッフの経験や人間性を活かしたピア的な支援としての「ママかんフリーカフェ」を運営できるよう、今後も大学研究室と連携して、活動を継続しつつ、地域課題の解決にチャレンジしていきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

＜ママかんスタッフ8名一同から＞

今回、マツダ財団から資金をいただき、私たちがイメージしていた「ボランティアのためのハンドブック」が完成したことにスタッフ全員で喜んでいます。

また、母親同士の出会いや交流が生まれるためのカフェ運営を、自閉症を育てる母親だけでなく、専門家ボランティア、学生ボランティアの力が活用できたことで、このようなカフェを運営するための一つの方法が生まれたように思います。助成金を満額いただけたこと、本当に感謝しています。これからも、自閉症支援にかかわってくださるボランティアとの出会いを大切にしながら、私たち自身も社会貢献できるような取り組みを行なっていくことができたと思います。

＜山口県立大学社会福祉学部 藤田研究室より＞

マツダ財団から助成金をいただいたことでハンドブック(冊子)の編集にかかわらせていただき、ママかんと共にこれまで行なってきた活動の成果が一つの形になったことはとても嬉しく思いました。今後も、ママかんとの共同実践を行いながら、この活動を継続させ、地域の中で、「ママかんカフェ」が定着していくように自閉症児を育てる母親と専門家とボランティアが手を取り合いながら素敵な取り組みができるよう大学研究室として協力していきたいとします。特に、ボランティア育成には力を注ぎ、多くの学生たちが自閉症支援にかかわることができるようコーディネートしていきたいとします。ありがとうございました。